

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第8号

令和7年12月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

今年度、最後の通信となります。世界にはいろいろな人がいて、文化や考え方方が違うのだから、それらを受け入れながら一緒に仕事をしたり、生活したりすることが必要であると言われています。頭では理解できると思いますが、実際に行動できますか。

違うものを受け入れながら生きていくには、何が必要なのでしょうか。

“多様性を受け入れる”とはどういう意味？

(EdulinX ネット記事より)

多様性とは？

多様性（ダイバーシティ）とは、性別や年齢、国籍、人種、文化、価値観といった異なる特性をもつ人々が互いを認め合い、共存していくことです。これは単に多様な属性をもつ人々が一緒にいるだけでなく、それぞれの違いを受け入れ、理解し合うことを意味します。

表層的ダイバーシティ

・性別　・年齢　・国籍　・人種　・SOGI（性的指向・性自認）　・障害の有無など

深層的ダイバーシティ

・価値観　・宗教　・経験　・嗜好　・第一言語　・コミュニケーションの取り方など

表層的ダイバーシティは目に見えやすい一方で、深層的ダイバーシティは外見やプロフィールだけでは判断しにくいため、無意識の偏見を減らす努力が不可欠になります。

“多様性を受け入れる”が意味するもの

多様性のある社会は、形式的に相手を受け入れる姿勢をとることではなく、真の理解と適切なコミュニケーションによって実現します。

多様性の受け入れと聞くと、“多数派が少数派を受け入れること”だと考える方が多いのではないでしょうか。しかし実際には、人それぞれ異なる背景や価値観をもっている以上、誰もが他者を受け入れる側であると同時に、常に誰かから受け入れられる側でもあるのです。また、自身と異なる属性の人物を無条件に肯定すればよいわけでもありません。

異なる価値観や文化があることを理解したうえで、相手との関係性に応じて適切な距離感を保つことが大切です。

*相手に関心をもつ

多様性の受け入れは、相手に対して関心をもつことから始まります。単に「人それぞれ」という言葉で片付けるのではなく、相手がどのような価値観や背景をもつのかを理解しようと努める姿勢が大切です。無関心でいることは多様性を尊重することとは異なります。

*バイアス（先入観や偏見）を自覚する

無意識にもっているバイアスを自覚することも大切です。私たちはこれまでの経験や文化的背景を通じて、気づかぬうちに固定観念や先入観を形成しています。

たとえば「外国人は自己主張が強い」や「年上は無条件に敬意を払われるべきだ」という考え方、バイアスの代表です。これらの思い込みが無意識のうちに他者を傷つけたり、誤解を生んだりする原因となることも少なくありません。

自分がもっているバイアスを意識的に振り返り、「自分の考えが必ずしもすべての人には当てはまるわけではない」と一歩引いて考える習慣を身につけましょう。

多様な価値観や背景をもつ人々がいることを理解し、それを基にした柔軟な対応ができるようになることが、多様性を受け入れる第一歩です。

どうですか。真に多様性を受け入れることはできますか？多様性を受け入れられる人になるためには「心を育てる」ことが必要だと考えます。

「あなたは何がしたいのですか？」と聞かれたときに、何と答えますか。「〇〇をしたい」とすぐに答えられる人は少ないでしょう。では、「〇〇をしたい」というものを自分の心中に生み出すには、どうしたらよいのでしょうか。

「社会の中で何が起きていて、どう変わっているのか」を肌で感じることです。社会の中の一員（**生きる当事者**）であることを実感することです。そう言われても、なかなか実感できていないのが現実ではないでしょうか。体験するもよし、新聞や本を読むもよし、ネットを活用するもよし、いろんなことに興味・関心を持ち、感じることです。そして、感じる心を豊かにしましょう。

そうすると、「〇〇してあげたい」「〇〇しなくてはいけない」「〇〇をすると人が喜ぶ」などの気持ちが生まれるはずです。それを実現していきましょう。

人は、人と関わりたい・人を助けたい・人の笑顔を見たいなどの気持ちが自然にあり、人と一緒に過ごすことで幸せを感じるのです。自分のしたことで人が幸せを感じている姿を見れば、心が満たされて生きている喜びも感じるはずです。**心を満たす経験を積んでいくこと**で人として成長し続けるのです。

多様性を受け入れる社会・平和な社会の実現には、**心を育てる**ことです。学校で学んでいる・経験しているすべてのことが心を豊かにしているのです。厳しく差が広がっていく社会になったとしても、平和で人に優しい社会を創っていく人になってください。

和を以て貴となす